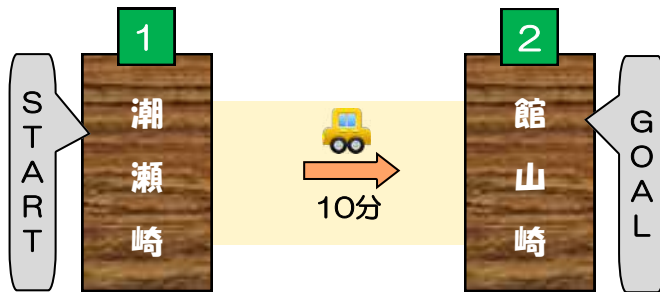


内容 男鹿半島の「大地の物語」を学ぶコース。人気者のゴジラ岩をはじめ、地球がつくる「自然の彫刻」を楽しもう!



1 潮瀬崎ジオサイト



●ゴジラ岩：火を吹く岩!?

潮瀬崎は約3,000万年前の岩石が風化によって独特の形に削られ、自然の美術館といえるジオサイト。ゴジラ岩は怪獣ゴジラにそっくりで名付けられ、口元に夕陽を重ねた「火を吹くゴジラ」が人気。



●ガメラ岩：ゴジラのライバル!

男鹿半島の「ゴジラ岩」が脚光を浴びる中、知る人ぞ知る岩が、ゴジラのライバルといわれるこのガメラ岩。岩に生える緑色の苔が、ガメラの甲羅の特徴をよく引き出している。



●双子岩：二人仲良く並んでいる

双子岩はよく似た岩が二つ並んで。もともとあった岩石の割れ目にマグマが入り込んで固まった岩脈（高角度）、岩床（水平）を観察できる。



岩脈と岩床

2 館山崎ジオサイト



●グリーンタフ：発祥は男鹿半島

近隣の「椿の白岩」などといっしょに、約2,100万年前の激しい火山活動でできた岩石で、熱水などの影響で緑色に。グリーンタフという用語はこの館山崎が発祥の地。



●ツバキ自生北限地帯：

赤く情熱的な市の花! ヤブツバキが自生する北限地帯として、国の天然記念物に指定。椿が自生する由来と言われる若い男女の悲しい伝説などがある。



●椿の白岩：

キノコのマイタケに見える?

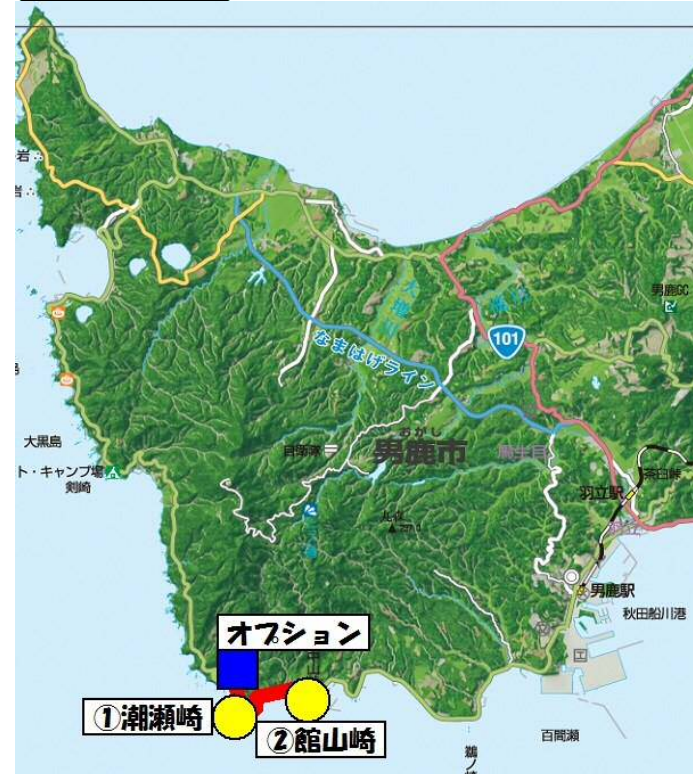
江戸時代の紀行家菅江真澄が「まいたけのような形をしている」と記録。アイスクリームをスプーンで削ったような形をしているが、長い年月の風化によってこのような形に。



●ろうそく岩：

昔は「観音」、今「ろうそく」グリーンタフが見られる崖のすぐ東側にある白っぽい柱のような岩石。かつて「観音岩」と呼ばれていたが、ろうそくの上部にあった頭の形をした岩石が取れてしまい、形がろうそくに似ていることからその名前が付いた。

コースマップ



(承認番号：平成24年度、第244-30899号)

オフショ 観光スポット ※トイレあり



●なまはげ立像(門前)：門前地区のシンボル!

門前のなまはげ立像は、五社堂の999段の石段にちなんで、高さが9.99メートル。日本海に向かって手をかざし睨みをきかせる。

持ち物・注意点

- 海岸付近は足元が悪くなっています。見学の際は足元や落石等に十分気を付けてください。
- 周辺は自然公園法で守られている国定公園内です。